

純粋倫理の特色

道徳の規範となる原理を「倫理」といいます。社団法人倫理研究所が提唱する純粋倫理は、実行によって直ちに正しさが証明できる生活の法則(すじみち)と解説できます。

つまり、実行すること(徳・行為・実践)が、直ちに幸福(福)の生活に結びつく(一致する)生活法則であると説明出来るのです。これが純粋倫理の大きな特色です。

倫理研究所の創設者である丸山敏雄の長年の実験・研究により実証された純粋倫理は、いつ・どこで・誰が行なっても再現性が可能な(必ずそつなる)生活法則であり、科学に立脚していることが大きな特徴です。

宗教に出入する倫理

経営者セミナーにおいて、純粋倫理を学ぶテキスト『万人幸福の栞』に、「親をとおして己の生命の根元にさかのぼれば、そこに神仏にかえる。敬神崇祖、即宗教に入ることが、真の人となるゆえんは、ここにある」とあります。この部分の解釈は難しいので解説文を引用します。

親 祖父母、曾祖父母、……と つぎつぎにもと

にかえって、そのゆきさきは、宇宙大生命と見る。

すなわち、神から人間が生まれ、宇宙大生命をわけ持

って、祖先が人間として誕生し、その生命をひきつ

いで、今日の自分があるのだと自覚する。そつし

て親から祖先へと、さかのぼってゆけば、宇宙大生

命すなわち神にかえることになる。敬とは倫理の世

界である。(中略)

しかるに、そのよつにして祖先を敬してゆけば、

目に見えずとも
ひとつながりの世界

絵・今谷 鉄柱

結局宇宙大生命すなわち神にいきつくのであって、窮極的には、神を信じ尊ぶことにほかならない。そこが宗教的なところである。(中略)

「敬神崇祖、即宗教に入る」とは、こつした消息をさしているにほかならない。何代までさかのぼれば、神に至るのか、といった合理的説明はなされずとも、つぎつぎにさかのぼってゆく過程を思うとき、倫理界のことが、そつした、時間的歴史のなるつながりをさかのぼって、宗教界に至っていることが容易に理解せられるであろう。ここに倫理と宗教とが、こつつきであることが分るのである。

(丸山竹秋著『倫理と宗教』新世書房・絶版)

こつした様子を「出入」と表現したので、純粋倫理は、科学と宗教を結び付ける役割も果たすという特色を有するので、

祖霊迎拜の倫理

亡き肉親の御霊に積極的に語りかける、感謝を捧げる、その遺志を継いで喜んで働く実践を総称して祖霊迎拜の倫理実践と捉えます。結果として、肉体的、精神的、物質的援助に支えられ、生活環境が整うのです。

年配のM夫人は、店舗として貸していたコンビニが突然撤退し、多額の敷金を三カ月以内に全額返納しなければなくなりました。この折、夫人は亡き夫に日々の実践として現状を報告し、新しい借主との縁が生れるよう、お願いし続けたのです。

一カ月半後、新規賃貸契約が結ばれ、無事、納めていただいた敷金を去っていくコンビニの返金に充てられたのです。Mさんは、住む世界は違っても、夫婦としての強い絆を再確認したのでした。